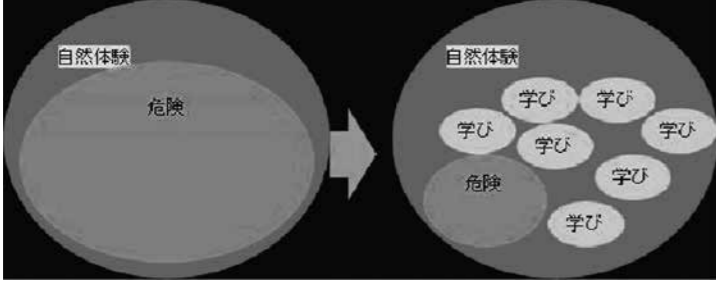


プログラム名	大人のための川遊び講座 ～子どもたちの川遊びを楽しく安全に～	
実施団体	○団体名：カワラバン ○代表者名：菅原 正徳 ○電話：090-9745-3571 ○FAX：022-739-8814 ○住所：仙台市青葉区中山 6 丁目 1-12 ビューテラス K101 ○E-Mail：contact@kawara-ban.org ※プログラム提案団体：特定非営利活動法人 水・環境ネット東北（平成 19 年度）	
対象者	大学生 成人（特に教員など）	
対象人数	20 人まで	
学習場所	前半 教室もしくは活動場所近くの市民センター等の会議室 ※時間の都合や近くに適した施設が無い場合は屋外で行うことも可能です。 後半 川などの水辺（広瀬川・名取川・七北田川・ダム湖・プール）	
学習時間	3 時間半（2 時間半～4 時間の範囲で調整可能） ※前半と後半を別日程で行うことも可能です。	
実施時期	7～9 月	
準備物品・費用等 （講師謝金を除く）	実施団体側	ライフジャケット大、ヘルメット、レスキューロープ 救急セット、ブルーシート、タープ、網、箱めがね インフレーターカヌー、教材（パワーポイント、DVD）
	利用者側	パソコン、プロジェクター、教室や市民センター等の会議室、救急セット、 各自濡れても良い服装
事前打ち合わせ	実施希望日の 2～1 ヶ月前と実施直前の 2 回	
効果的な学習段階	川での学習を行う前。または学校内での防災研修として。	
学習概要	1. 学習のねらい	
	(1) 川遊びが子どもたちの成長に与える影響を考える (2) 活動するフィールドを知る (3) 子どもたちを水辺で活動させる際の注意すべき点を学ぶ (4) 水辺での事故の対処法を学ぶ (5) 川遊びの楽しさを知る	
	2. 学習する内容	3. 学習のポイント
	(1) はじめに ○川遊びが育むもの  (2) 水辺の危険を探す ○川遊びの教材映像を見て危険箇所・行為を共有 (3) 活動を計画する(グループワーク) ○危険箇所・行為を考慮した川での活動を計画・発表・意見交換	・自然体験の必要性と自然体験の頻度と道徳心の相関 ・危険箇所・行為を共有し次のグループワークにつなげる ・危険箇所・行為を共有し深める

学習概要	(4) レスキュー体験 ○道具の説明 ○スローロープの使い方		・川の流を体感することで、安全配慮の重要性への認識を深める ・大人も川遊びの楽しさを知ったうえで子どもたちに伝える
	○レスキュー体験 ○川の渡り方		
	(5) 川遊びの楽しさを知る ○手網を使っての生き物採取 ○箱めがねを使っての水中観察		
	4. 学習のまとめ ○子どもの健全育成に川遊びは有効である。 ○子どもたちに水辺での活動を提供するには、安全面において十分な配慮をしなければならない。 ○子どもたちに水辺での活動を提供するには、自らもその楽しさを知らなければならない。		
追加・変更できる学習内容	○E ボート体験（10 人乗りの組立て式大型カヌー） ○（3）のグループワークを資料説明に変えることで時間短縮することも可能		
事前・事後学習についての助言	実施の必要なし		
雨天時の学習内容	○実地が最も重要なプログラムなので、荒天時や川の水位が高い場合などは延期する。 ○延期日程の確保が困難な場合は、（4）（5）のみプールや体育館で模擬的に行う。		